

# 12

(水)

## 失望しないで祈れ

ルカによる福音書一八章一〜八節

まして神は、昼も夜も叫び求める選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでも放っておかれることがあるうか。(7)

3/  
私たちが失望しないで祈り続けるために、主イエスは一つの譬えを話されました。一人のやもめが正しい裁きを裁判官に求め続けたというのです。イエスは、しつこく祈らなければならぬと言われるのではありません。不義な裁判官でさえそうならば、まして私たちの義なる神はなおさら、正しい裁きをしないで放っておかれることはないと言われるのです。主イエスが問題にされるのは、最後の裁きを行うために主が再び地上に来られるとき、人々の中に信仰が残っているだろうかということです。今このときにも、言葉数は多いけれども、信仰の詰まった祈りが何と少ないことかと主は嘆いておられます。それでもなお、主イエスは諦めることなく、神を信じて祈るようにと私たちを招いておられます。まして神は、あなたがたの祈りを聞きっぱなしにしておられることなどあろうかと。